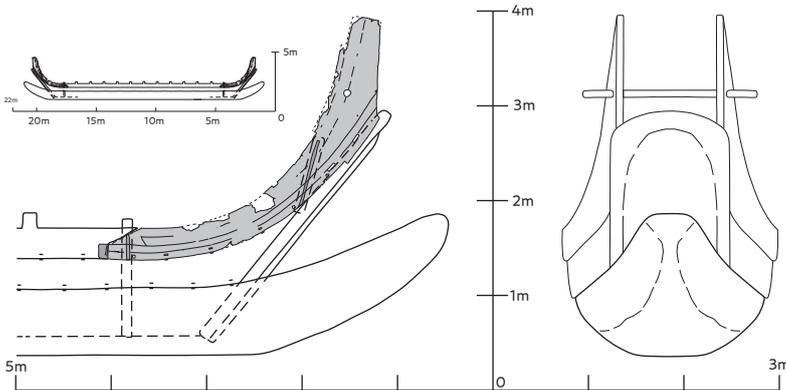


朝鮮半島系準構造船加耶タイプの復元と船体構造の検証

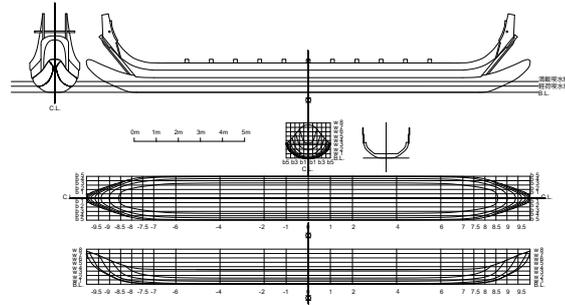
しばた しょうじ かねだ たかし
 ■ 講師: 柴田 昌児・金田 隆

2024年5月25日(土) 14:00~16:00

Zoomにて開催 (ルームオープン 13:30)



朝鮮半島系準構造船加耶タイプの復元



朝鮮半島系準構造船加耶タイプの船体線図と中央断面図



朝鮮半島南部の船形土器

写真出典: 『김해 봉황동유적 - 김해 봉황동 119-1 및 22-6 일원 주택신축부지 문화재 발굴조사』 2014 동양문물연구원

朝鮮半島南部、金官加耶国中心部の一角にあり、港湾施設でもある金海鳳凰洞遺跡で出土した3~4世紀の舷側板は、日本産と考えられるクスノキ材で、分析の結果、全長20m、幅2mの大型準構造船を復元することができた。日本には無い船体形状は朝鮮半島南部の船形土器に類例があることから、朝鮮半島系準構造船加耶タイプと呼称した。そして日韓交流・交易における塩鉄木馬論の可能性を指摘した(柴田2022)。

金田は復元した朝鮮半島系準構造船加耶タイプの船体線図を作成、復原力を計算し、考察した。この成果を受け、柴田と金田は船体構造を分析し、大型準構造船としての有効性を検証する。

■ 柴田 昌児 (しばた しょうじ) 日本海事史学会会員

論文に「海上アクティビティと高地性集落」「高地性集落」論のいま」科研基盤(B)成果報告集(2024年)、「準構造船とチキリ、そして外海と内水面交通」『新潟考古』33号、「総論海に生きた弥生人の多様性と多義性」柴田昌児編『特集 海と弥生文化』月刊考古学ジャーナル763号(以上2022年)、「瀬戸内の海に生きた弥生人」『紀伊半島をめぐる海の道と文化交流』論考集、「西日本の古代木造船と海上における人間活動 - 瀬戸内海と日本海 -」『新潟県考古学会2021年度秋季シンポジウム発表要旨集』、「準構造船と描かれた弥生船団」『青谷上寺地遺跡発掘調査研究年報2020』(以上2021年)、「古代瀬戸内海における海上活動に関する一試論」『みずほ別冊 弥生研究の群像』(2013年)。

■ 金田 隆 (かねだ たかし) 日本海事史学会会員

オクムラポート販売 技術顧問。
 著書に「古代船を復元する」『よみがえる古代船と5世紀の大坂』(1989年、松木 哲氏と共著)。

【参考文献】柴田昌児2022「朝鮮半島系準構造船(加耶タイプ)の生産と日韓の造船技術」『纏向学研究』第10号

● 関心をお持ちの方ならどなたでもご参加いただけます。メールでお申し込みください。

※希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。お申込みいただいた方には5月22日(水)までにご連絡いたします。

● 会員にはメールでご案内をお送りしています。メールが届いていない方は、右の申込先までお問合せください。

■ 申込〆切: 2024年5月21日(火) 正午(12:00)

■ 申込先: kaijishi.web@gmail.com (担当: 大野)

メールの件名を「日本海事史学会 Web 例会申し込み(非会員)」として、本文にはお名前をお書きください。

日本海事史学会は、海事一般に関する歴史・法律・民俗・水産・考古・船舶・航海・海運など、海事史だけにとどまらずひろく海の人文、社会科学等あらゆる分野に関心を持つ学界や在野の研究者の方々の交流をはかる総合研究の“場”です。

【主な活動】専門学術誌『海事史研究』の発行(年1回)／総会(年1回)・例会(8月と総会開催月を除く年10回) など

